

京都教育大学FDニュース

No.76

2015年7月13日

京都教育大学FD委員会

2014年度後期学部授業アンケート集計結果について

学部授業アンケート（2014年度後期）の実施にご協力いただきましてありがとうございました。調査の概要と結果をご報告いたします。

1. 調査の概要

実施期間：2015年1月21日（水）～2月3日（火）

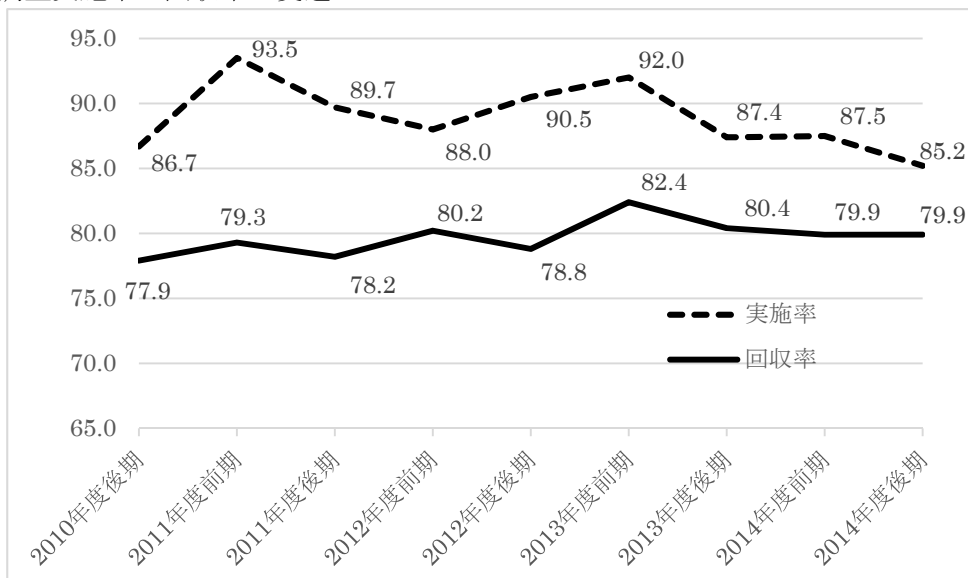
対象科目：受講登録者6名以上の全授業科目

対象科目数：364，実施科目数：310（実施率85.2%）

実施科目の履修者数：11,352名，回答者数：9,072名（回収率79.9%）

内訳：1回生3,578名（39.4%），2回生3,183名（35.1%），3回生1,493名（16.5%），4回生320名（3.5%），5回生以上48名（0.5%），回答したくない295名（3.3%），無効・無回答155名（1.7%）

■ 近年の調査実施率と回収率の変遷



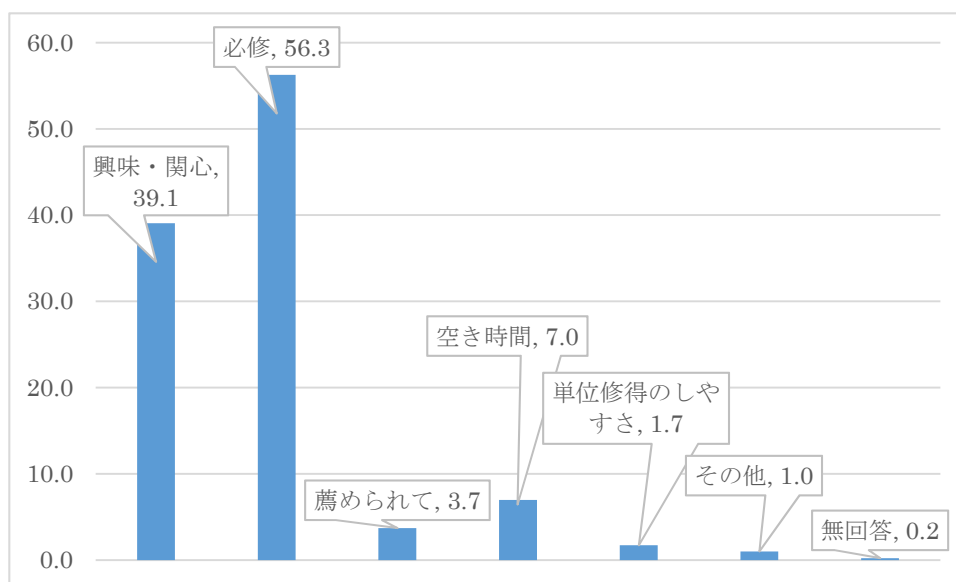
過去4年半の実施率（対象科目の内アンケートを実施した割合）と回収率（履修者数に対する回答者数の割合）をグラフで示します。実施率は9割前後、回収率は8割前後を推移していますが、最近わずかに減少傾向にあるようです。未実施の理由としては、元々登録者数が少なく実施時には出席者がさらに減少したため実施しなかった場合や、実験や実技科目などで筆記作業を必要とするアンケートの実施が難しい場合があるのではないかと考えられます。したがってこのような科目に対する対応も検討する

必要があるでしょう。また授業時間確保を優先しアンケートを実施する時間が取れなかったとも考えられますが、この場合でも、アンケートには多くの時間を必要としないので是非実施にご協力いただきたいと思います。

2. 結果の概要

(1) 項目別の回答分布一覧

■Q1 受講動機（複数選択可）



「Q1：受講動機」は例年と同様に、「必修だから」が最も多く 56.3%となり、「興味・関心」が 39.1%となっています。後期同士を比較するため 2013 年度後期と比較しますと、「必修だから」が約 3%減少し、逆に「興味・関心」が約 3%増加しました。これは好ましい傾向で、主体的に受講しようとする意志の増加の表れだと考えられます。他の項目については大きな増減はありません。

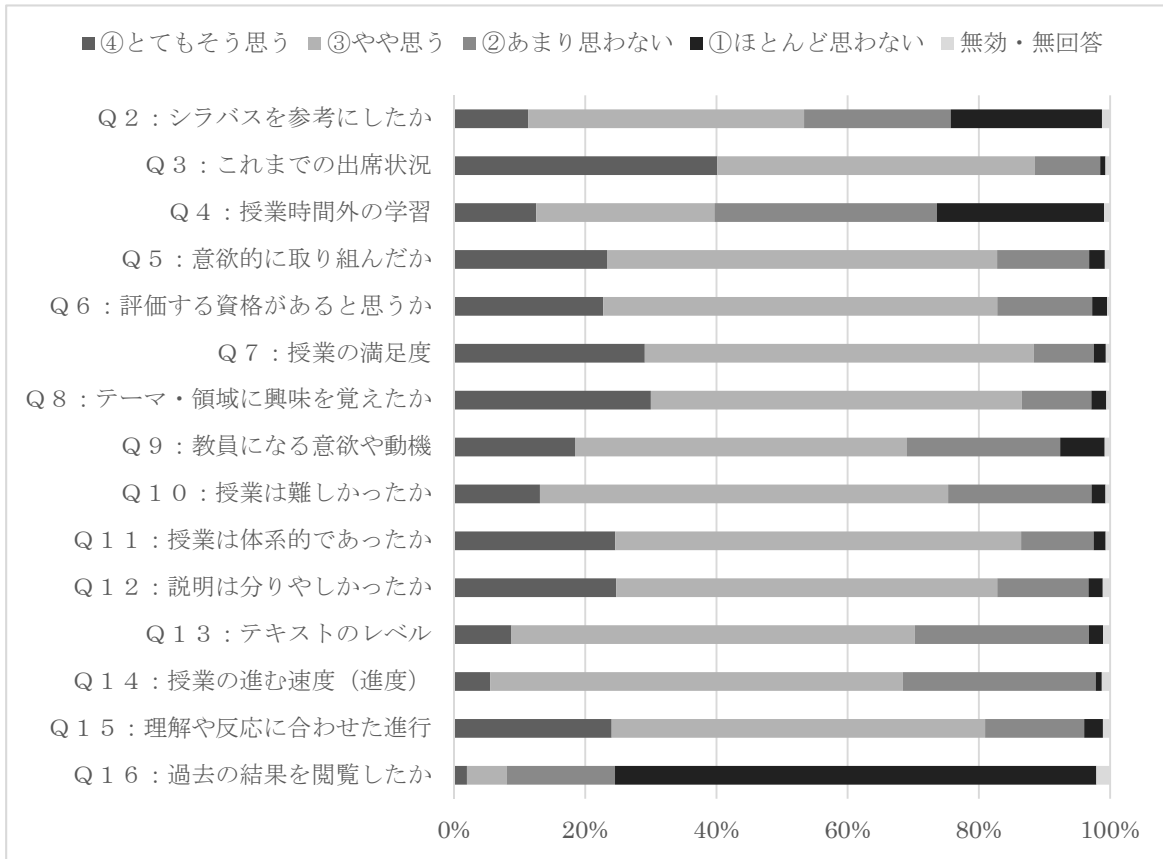
■Q2～Q16 全体回答の帯グラフ

「Q2：シラバスを参考にしたか」では、例年と同様に、53.4%の受講生しか「参考にした」と答えていません。必修科目が多いこともあり、学生は授業を自ら選択するという意識が低いのかもしれません。また、「Q3：出席状況」では、89%の受講生が「0～2 回の欠席」と答えており、出席率は良いようです。

「Q4：授業時間外の学習」については、「1 時間未満」、「ほとんどしない」という回答者の割合は 59%となっています。2011 年度前期は 65%に達していましたが、半期毎に約 2%ずつ減少し、2012 年度後期には 59%になり、その後 2013 年度前期 62%、後期 60%、2014 年度前期 62%、そして今回の 59%と、最近はやや改善傾向にあるようです。授業時間外学習の時間を増やすためには、今どきの学生の気質を考えて、課題を明確に与え、自主学習の方法を学ばせることから始めることが必要かもしれません。

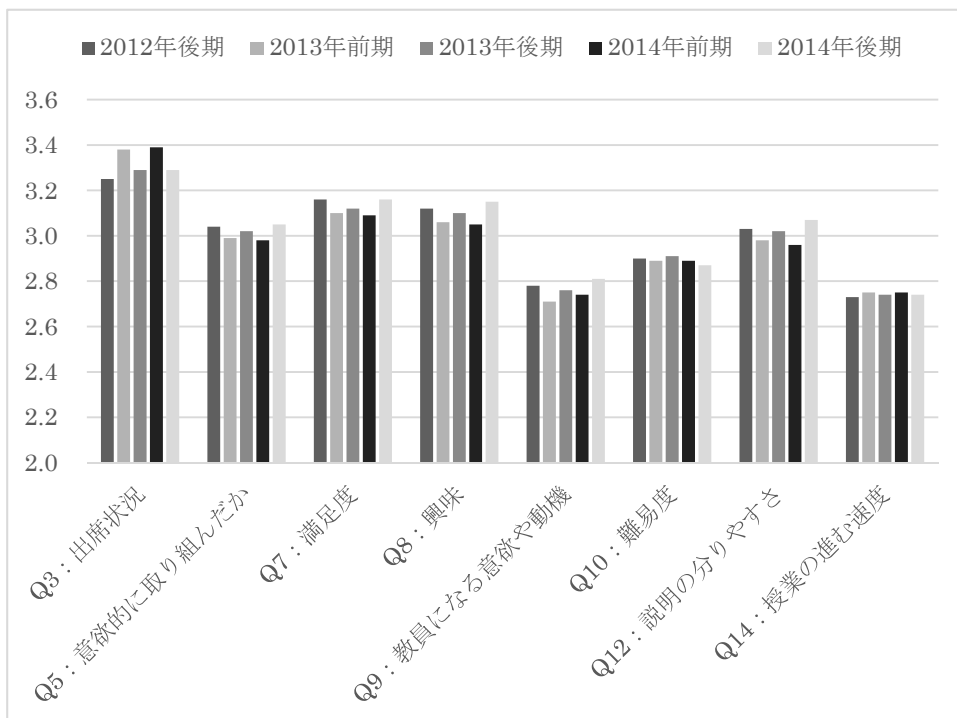
「Q9：教員になる意欲や動機」に関してですが、「とても高まった」、「やや高まった」と回答したものを合わせると 69%と前期に対して 3%程度ですが増えています。この項目は、わずかですが、前期に低く後期に高い傾向がありますが、前年度の後期と比較しても 2%以上増えており、良い傾向といえます。

「Q16 アンケート結果の閲覧」では、73%の受講生が全く閲覧していないという結果になりました。前期は約 75%で、おおよそこの程度の値を推移しています。



(2) 過年度と同一項目の平均値の比較

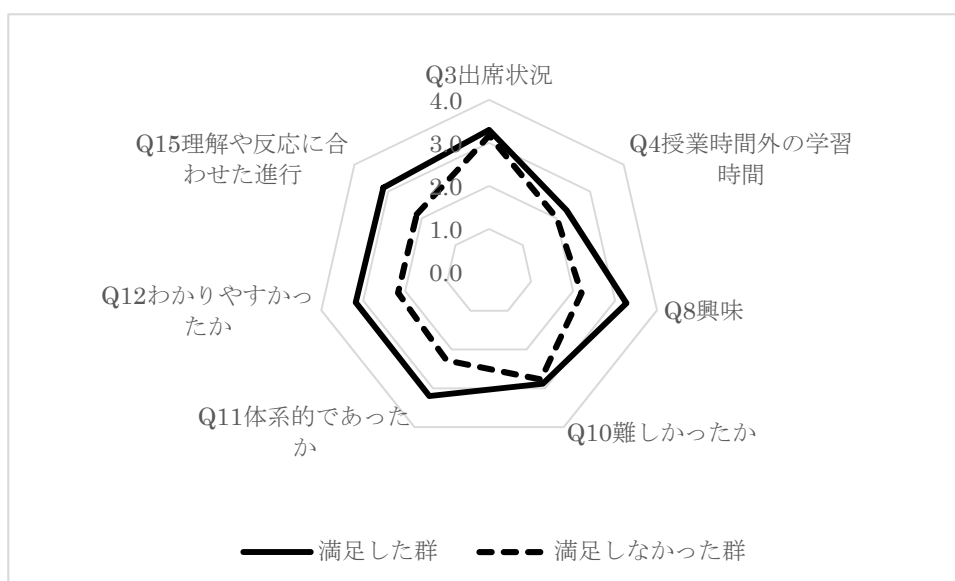
以前から継続して実施している質問項目について、平均値を比較したものが次の棒グラフです。「Q3：出席状況」、「Q5：意欲的に取り組んだか」に関しては前期後期の違いによる変化を除けば、やや改善が見られます。また「Q7：満足度」、「Q8：興味」、「Q9：教員になる意欲や動機」、「Q12：説明にわかりや



すさ」に関してもやや増加傾向にあり、授業改善の試みが結果として表れつつあるのかもしれませんが。また「Q14：授業の進む速度」が横ばいであるものの、「Q10：難易度」がやや減少していることは、授業内容や配布資料の改善、授業形態の改善、学生の理解度の変化など様々な要因が関係していると思われます。

(3) 「授業に満足した群」と「満足しなかった群」の違い

授業の満足度を問う質問に対して「とても満足した」、「やや満足した」と回答した 8018 名 (88.4%) の「授業に満足した群」と「やや不満だった」、「とても不満だった」と回答した 996 名 (11.0%) の「授業に満足しなかった群」を比較すると、例年通りの結果となりました。



この図から、満足度は出席状況や授業の難易度とはほとんど相関がないことがわかります。満足していても出席状況は良く満足していても授業は難しいと答えています。満足したかしなかったかは、元々その分野に興味があったかなかったかに、大きく左右されるのではないのでしょうか。また、満足度は授業時間外の学習時間ともあまり関係がありません。満足した群の内でも、授業時間外の学習時間が 1 時間未満の者は 34.1%、ほとんど費やさなかったものは 24.1%で、合わせると 58.2%に達します。満足した群の受講生がその分野に対して初めから興味を持っていたとみなすならば、適切に課題を与えることによって授業時間外の学習時間を増やせる可能性があるでしょう。

ここに示した結果を、今後の授業改善の参考にしていただければ幸いです。

2015年度前期の学部授業アンケート実施のお知らせ
 実施期間：2015年7月16日（木）～7月30日（木）
 対象科目：受講登録者数6名以上の（集中講義、不特定科目を除く）全授業
 ご協力をお願いいたします。

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD 委員会委員：安東（委員長）、大竹（副委員長）、古賀、谷口（慶）、田爪
 （事務担当：相原）